

## 【防災】

# 1 竜巻発生時対応マニュアル

## 1 対応マニュアル作成のねらい

2012(平成24)年5月6日に発生した竜巻は、栃木県(真岡市・益子町・茂木町)にも甚大な被害をもたらした。この竜巻被害を教訓に、竜巻に対する備えを速やかに整える必要がある。

## 2 竜巻が発生するとき(指導事項～栃木県人の基礎・基本)

### (1) 竜巻の予兆

- ・ 真っ黒い雲が近付き、周囲が急に暗くなる。
- ・ 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ・ ひやっとした冷たい風が吹き出す。
- ・ 大粒の雨や雹が降り出す。

### (2) 竜巻が起きると

- ・ ゴーという音が聞こえる。
- ・ 真っ黒い雲から漏斗状の雲が下がってくる。
- ・ トタン屋根や発砲スチロールなどのごみが宙に舞っている。

### (3) 竜巻が接近してきたら

#### 【学校で】

##### ① 教室にいる場合

ア 目の前に竜巻が見えている場合(逃げる時間的なゆとりがない場合) 10秒程度

- ・ 防災頭巾や帽子を被る。
- ・ 机の下に潜り、机の脚を両手でしっかり握る。

イ 竜巻が見えている場合(逃げる時間的なゆとりが少しある場合) 15秒程度

- ・ 防災頭巾を被る。
- ・ 近くのトイレ・更衣室・階段下等へ駆け込む。
- ・ 身を伏せる。

ウ 竜巻が見えている場合(逃げる時間的なゆとりがある場合) 20秒程度

- ・ 防災頭巾を被る。
- ・ コンピューター室前廊下に集合する。
- ・ 身を伏せる。

エ 遠く竜巻が見えている場合(逃げる時間的なゆとりがある場合) 30秒程度

- ・ 防災頭巾を被る。
- ・ 窓を閉め、鍵を掛ける。(教師)
- ・ カーテンを閉める。(教師)
- ・ 出入り口の扉やドアを閉める。(教師)
- ・ 机を壁の方に寄せ、シェルターとする。
- ・ シェルターに潜り、机の脚を両手でしっかり握る。

##### ② 校舎内にいる場合

- ・ 近くのトイレ・更衣室・階段下等へ駆け込む。
- ・ ガラス窓からできるだけ離れる。
- ・ 壁に近いところで身を伏せ、避難姿勢をとる。

##### ③ 屋外にいる場合

- ・ 建物(校舎)内に避難する。※物置やプレハブなどには避難しない。
- ・ 近くのトイレ・更衣室・階段下等へ駆け込む。
- ・ ガラス窓からできるだけ離れる。
- ・ 壁に近いところで身を伏せ、避難姿勢をとる。

#### 【登下校中に】

##### ① 登下校する前

- ・ 荒天(雷雨や強風)時には登下校を控え、天候回復を待つ。

##### ② 登下校中

- ・ 屋根瓦などの飛ばされてくる物に注意しながら、素速く避難する。

- ・ 近くの頑丈な建物（ビルなど）に避難する。
- ・ 建物がない場合は、側溝など窪みに身を伏せる。※電柱や樹木には近寄らない。倒壊する危険がある。

#### 【家で】

- ・ ガラス窓から離れる。
- ・ 2階から1階に降りる。
- ・ 壁に囲まれた狭い場所（トイレ・押入・階段など）で身を伏せ、避難姿勢をとる。※可能なら、家より頑丈な建物（ビルなど）に避難する。

## II 落雷発生時対応マニュアル

### 1 対応マニュアル作成のねらい

栃木県は、日本でも有数の雷県である。落雷発生頻度が高いことから、教職員ばかりでなく児童一人ひとりも、雷について正しく理解し、状況に応じて「自分の身は自分で守る」ようにしておく必要がある。

### 2 落雷が発生するとき（指導事項～栃木県人の基礎・基本）

#### (1) 雷の予兆

- ・ 真っ黒い雲が近付き、周囲が急に暗くなる。
- ・ ひやとした冷たい風が吹き出す。
- ・ 大粒の雨や雹が降り出す。

#### (2) 雷が発生すると

- ・ 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。

#### (3) 雷が接近してきたら

##### 【学校で】

#### ① 校舎内にいる場合

- ・ 窓から離れる。
- ・ 電気機器から離れる。

#### ② 屋外にいる場合

- ・ 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてくるので、野外活動をしている場合、速やかに屋内に避難すること。※校庭にいる場合は、校内放送で避難指示する。

##### 【登下校中に】

#### ① 登下校する前

- ・ 雷は30分程度で収まることが多いので、家や学校で待機する。

※ 特に、下校時の雷雲接近に関しては、無理に下校させず、教室また体育館で全校待機させ、その旨一斉メール配信にて保護者に知らせる。迎えが可能な保護者には、車での下校を依頼するほか、全員が安全に下校できるような手立てを講じる。

#### ② 登下校中

- ・ 雷は30分程度で収まることが多いので、近くの建物で雨宿りをする。無理に移動したり帰宅したりしない。

##### 【外遊び中に】

- ・ 雷は高いところに落ちやすいので、立ち木から離れ、近くの建物や車等に避難する。近くに避難する場所がない場合は、平らな場所で身を伏せる。

### III 洪水・浸水発生時対応マニュアル

#### 1 対応マニュアル作成のねらい

年寄りの話によると、「子供の頃、田川や周辺の小川から水があふれ、校庭が水没したことがあった。」そうだ。

下野市「洪水ハザードマップ(洪水避難地図)」によると、田川は、日雨量217mmで洪水が発生する可能性がある。

実際に洪水が発生した場合、本校周辺は1.0～2.0m、校庭は0.5～1.0m 浸水する恐れがあると予想されている。

近年地球温暖化の影響か、日本各地で短時間局地的集中豪雨による洪水や土砂崩れ等の災害が毎年のように頻発している。そして、平成27年9月には、関東・東北豪雨による鬼怒川や黒川など身近な一級河川のはん濫も発生し、周辺市町では住宅地が水没するなどの大きな被害が出ている。

従って、本地域・本校でも、洪水の危険性に対する認識と備えを速やかに整える必要がある。

#### 2 洪水避難情報等の把握と周知

大気が不安定な状況にあることは、情報として前日から出されている場合が多い。普段以上に、テレビやインターネット等により気象情報を把握するように努める。

気象情報・洪水予報(注意報・警報)のほかに、災害時には避難勧告・指示も、市役所より伝達される。

宇都宮地方気象台は、次のような基準で、気象予報を発表する。

気象予報の種類		発表基準の雨量
特別警報	数十年に一度程度の大雨となるおそれ大きいとき	
警報	大雨	1時間80mm以上
	洪水	1時間80mm以上
注意報	大雨	1時間30mm以上
	洪水	あるいは3時間50mm以上 3時間80mm以上

#### 3 避難情報の種類と本校のとるべき行動

判断水位	避難情報のレベル	よびかけ	本校のとる行動
はん濫注意水位	避難準備	○田川が増水しています。吉田地区のみなさんは避難の準備をしてください。今後の情報に注意をしてください。	○職員室にある防災グッズ等の持ち出し準備をする。(無担) ○インターネット等で、気象情報等を収集する。(無担)
避難判断水位	避難勧告	○田川の堤防が決壊する恐れがあります。吉田地区のみなさんは避難を始めてください。	○一斉メールで、保護者に迎えを依頼する。(無担) ○児童に帰り支度をさせる。(学担) ★市当局の要請があれば、地域の避難場所となる体育館で受け入れ準備を始める。(無担)

			※学校周辺も浸水することが予想されるので、体育館は避難所に指定されないこともある。(その場合、学校西の台坪山方面や仁良川コミセン、南河内公民館への避難を促す)
はん濫危険水位	避難指示 (避難命令)	○田川の堤防が決壊する危険があります。吉田地区のみなさんは、直ちに〇〇へ避難してください。 (仁良川コミセン、南河内公民館等)	○児童を保護者に引き渡す。 ★市当局の要請に応じ、避難民を受け入れる。(無担) ★避難所になった場合の非常用電話機は体育館玄関に設置済み。 ●洪水が発生したときは、一斉メールで保護者に、水が引くまで、児童を預かることを伝える。 ●北側の田圃の水位が校庭の高さ(0.5 m)を超えたら、児童を西校舎3階の理科室・学習室に移動させる。(学担) ★地域避難民も西校舎2階の理科室・図工室に移動してもらおう。(無担) ★水が引くまで、地域避難民を支援する。(無担)

#### 4 備考 (平成27年9月9・10・11日の関東・東北豪雨の教訓から)

※ 児童が登校する前に、気象予報として「特別警報」が発令されたり、河川が氾濫注意水位を超え「避難準備」の指示が出たりした場合は、市教育委員会からの「臨時休業」の連絡及び学校避難所開設等に備え、管理職(教頭)は必要に応じて学校に待機する場合もある。